

## メキシコの金利引き下げについて

2013年10月28日

メキシコ中央銀行は10月25日(現地時間)0.25%の政策金利引き下げを決めました。これで同国の政策金利は3.50%と過去最低となりました。今回の引き下げは前回の9月に続き2会合連続であり、2013年に入り3度目の実施となりました。またこの決定は大方の市場関係者の予想通りであったことや会合後の声明で利下げの打ち止めに示唆されたこともありメキシコ・ペソには大きな変動はみられませんでした。

## 《利下げの背景》

決定の背景には①経済成長率の減速、②米国的緩和縮小開始時期の後退、③インフレ率の落ち着き、などが考えられます。

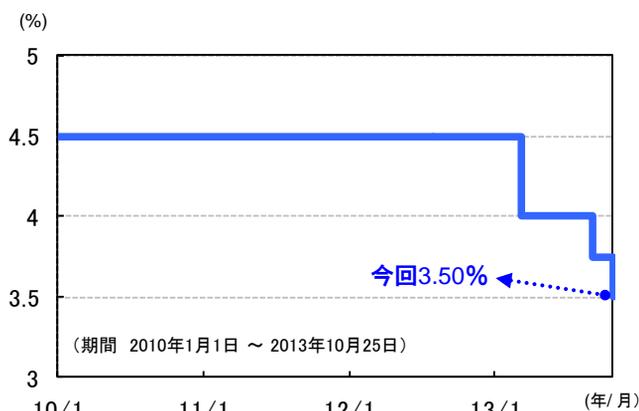
- ①メキシコ経済は4～6月期の実質GDP成長率は前年比で+1.5%だったものの、前期比では▲0.7%と2009年以来のマイナス成長に転じています。足元でも7、8月と鉱工業生産が前年比でマイナスとなっており、さらには9月のハリケーン被害、政権交代による公共投資の執行の遅れなどから、メキシコ政府は2013年の同国の経済成長率見通しを引き下げ(+3.1%→+1.8%)ています。その後も最大の貿易相手国である米国の債務上限問題による政府機関の一部閉鎖による悪影響が懸念されることもあり政府・中央銀行は成長を下支える必要に迫られたと考えられます。
- ②予想された9月に米国QE3(量的緩和第3段階)縮小開始が見送られ、その後も景気の減速を示す経済指標が目立っていること、政府機関の一部閉鎖の影響が予想されること、次期FRB議長指名が緩和容認派である現副議長に内定していることなどから、米国のQE縮小開始時期は年明け以降に先送りされるとの見方が強まっています。
- ③メキシコではインフレターゲット(中心値3.0%±1%)が導入されています。9月のCPI(消費者物価指数)は前年比で+3.39%と同ターゲット中心値近辺にあります。現在インフレの懸念はほとんどない状況にあります。

## 《今後の景気、為替について》

景気については減速感が広がっています。主要産業である自動車は好調だった輸出に頭打ち感が出ており、生産台数には鈍化がみられます。海外就労者からの送金額は若干回復したものの、米国の財政協議の難航による政府機関の一部閉鎖や雇用の回復の遅れの影響が今後は顕在化するものと考えられます。

為替レートについては主要通貨に対して底堅い動きが続くとみています。米国のQE縮小開始時期の後退で、海外への流出の目立った証券投資資金も回復に向かうと思われます。また大幅に増加した直接投資は反動減が予想されますが、中央銀行が利下げの打ち止めに示唆していることもあり下値不安はあまりないと考えています。

## 《メキシコの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《メキシコ・ペソの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。